

まいづる

次号の折り込みは4月16日(月)

〈舞鶴市ホームページ〉 <http://www.city.maizuru.kyoto.jp/>

※携帯電話用ホームページは下のQRコードから。



今号の主な内容

人材育成基本方針を策定(2ページ)、市議会3月定例会の結果(3ページ)、平成24年度予算概要をお知らせ(4・5ページ)、春を探しに出かけてみませんか(8ページ)

まいづる花図鑑

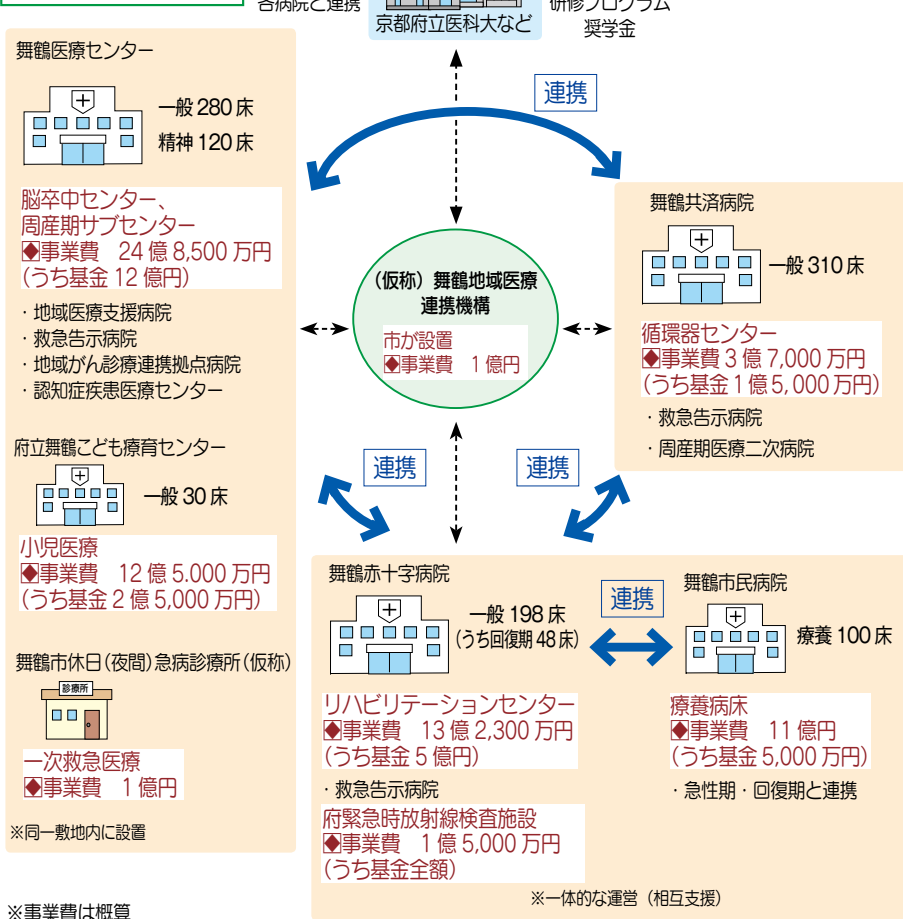


ヤマブキ
バラ科 見ごろ…4月～5月

人里近くの道端や谷川沿いによく見られ、観賞用にも栽培される落葉低木。幹は緑色で高さ1～2mまで束になって伸びる。葉は互生し先がとがる。春、短く新しい枝の先に直径約4mmの鮮やかな黄色の花を1個ずつ付け、新緑の中によく目立つ。また、1～4個の果実が成熟する。名前の由来は、山で枝や葉が風に揺れることから。

協力=瓜生勝朗 市文化財保護委員(植物分野)

新たな地域医療再生計画のイメージ図



新たな中丹地域医療再生計画

国が承認、本格的にスタート

地域医療連携機構準備会議を開催

府が国に提出していた「中丹地域医療再生計画」の修正案が、3月26日付けで厚生労働省に承認されました。本市の長年の課題であった地域医療の再生に向けた取り組みが、いよいよ本格的にスタートします。今後、計画期間の期限である平成25年度末までに公的4病院の機能充実などを図っていきます。



〔仮称〕舞鶴地域医療連携機構の概要などについて協議

地域医療の確保および調整役となる「(仮称)舞鶴地域医療連携機構」の設立に向けて、3月26日、「舞鶴地域医療連携機構準備会議」を設置し、第1回会議を開催しました。同準備会議は、同連携機構の設立に向けての準備やそれまでの間の救急医療体制、その他の地域医療などについて協議、調整を行います。第1回会議では、新たな

計画の概要

国に承認された同計画は、医療機能の選択と集中、分担と連携により地域医療の再生を図り、東・西地域の医療バランスを考慮した体制を目指すものです。今後、舞鶴医療センターは脳卒中センターおよび周産期センター、舞鶴共済病院は循環器センター、舞鶴赤十字病院はリハビリテーションセンター、舞鶴市民病院は療養病床、救急医療体制の充実や各医療機関の連携強化などに取組むことで、地域医療の確保を図ります。各病院の事業計画などは、上図のとおりです。

市民病院

4月から診療体制を変更 療養病床に特化

4月から市民病院の療養病床を8床増床(48床から56床に増床)し、療養病床に看護体制を集約した運営を行います。なお、一般病(60床)は3月末で休床しました。

〔中丹地域医療再生計画〕の修正案が3月26日付けで国に承認されたことを受け、同病院は市に不足する療養病床に特化し、慢性期医療を担う病院として平成26年春の開業を目指して準備を進めています。これまでの間も現在の施設でできる限り効率的かつ効果的な運営を図り、経営の改善に努めています。

◆内科◆神経内科◆呼吸器内科◆消化器内科◆歯科

◆整形外科◆診療日時：毎週月曜日、14時～16時

◆脳神経外科◆診療日時：毎週火曜日、9時～12時

◆加佐診療所に新たに外来診療科を開設。4月から加佐診療所に整形外科と脳神経外科の外来診療科を開設。

地域医療再生に関するお問い合わせは、地域医療連携推進課(☎66・1036)へ。舞鶴市民病院に関するお問い合わせは、同病院医療サービス課(☎62・2630)へ。

東日本大震災

放射線量 日常と同等以下を条件に がれきの受け入れにご理解を

舞鶴市長 多見良三

私は、今回の東日本大震災におけるがれき処理について、国・府からの支援要請があったときには、市として積極的に対応し、できる限り早期に受け入れをしていきたいと考えています。昨年3月11日に東日本大震災が発生してから1年以上が経過した今も、被災地のがれき処理の遅れもあり、復旧・復興は遅々として進んでいない状況です。本市は平成16年の台風23号の災害において、近隣市町をはじめ府内外から災害廃棄物の処理の支援をいただき、今も感謝しています。市議会3月定例会においても市議会が、がれきの受け入れを表明する決議を可決されたところですが、受け入れにあたっては、市が処理を行っている日常の廃棄物と同等もしくはそれ以下の放射線量のものに限るといった条件のもと、市の処理能力にに応じ、身の丈にあった受け入れの対応をしていきたいと考えています。それには、市民の皆さまをはじめ、一般廃棄物処理施設のある地域の皆さまのご理解とご同意を得ることが不可欠であることから、がれきの受け入れにあたっては、今後、私が先頭に立ち、市民の皆さまに丁寧に説明し、ご理解をお願いしたいと思います。